

比較地域特殊講義

担当者 閻 和平

開講時期 前期 単 位 1

中国を中心に、住宅問題をめぐる比較研究

●講義の概要

産業革命以来、住宅問題は世界各地において都市化や経済発展などと表裏一体にして現れてきた。昨今、中国経済は急速な都市化と経済発展を遂げている一方、蟻族現象に代表されるような住宅問題が深刻化している。

住宅問題の様相はそれぞれの国の経済社会システムと密接な関係を持ち、その国の経済社会諸制度の抱える問題の凝縮といっても過言ではない。経済社会が成熟した日本でも、種々の住宅問題を抱えている。

中国においても、世界においても、都市人口が全人口の過半数を占めるようになった今、住宅問題が世界的な課題となり、問題の実態を正しく把握し解決に適切な政策を立案できる力が国を問わず求められている。

本講義は中国において経済社会の変化の中で、住宅制度がどのような意味合いを持ち、それぞれの時代において、住宅問題がどうなっていたかを学び、日本や韓国の状況と比較しながら、中国の抱える住宅問題の特殊性を明らかにしていく。最後に、グローバル化が進んだ今、UN-HABITATの取り組みを学習し、世界的な視点で住宅問題を考察する。

●講義の到達目標

住宅問題の歴史やその発生メカニズムをまず理解する。その上で、中国の経済社会制度の変遷の中で住宅問題を捉えて、住宅問題と経済社会システムとの関係を究明する力を養い、さらに、他国の事例を参照し、比較研究の視点を身に付けていく。

●講義計画

- 第1回：住宅問題とは何か
- 第2回：社会主義計画経済と社宅制度
- 第3回：市場経済への転換と住宅制度改革
- 第4回：中国の住宅問題と住宅政策
- 第5回：日本の住宅問題と住宅政策
- 第6回：韓国の住宅問題と住宅政策（特別講師が担当予定）
- 第7回：住宅問題とハビタットの取り組み
- 第8回：履修生課題発表と講釈

●成績評価基準と方法

評価方法

1. 講義理解課題小レポート 70% (10%×7回)
次回講義に提出

2. レポート提出 30%

評価基準

1. 産業革命、都市化と住宅問題発生との関係性を説明できるか。
2. 各経済段階において、中国政府がどのようなスタンスで住宅政策を展開していたかを区分して整理できるか。
3. 中国の住宅制度と他のアジアの国々との相違を比較分析できるか。

●テキスト又は参考文献

なし

●受講上の留意点

配布資料を講義前に通読すること。